

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373900519		
法人名	(株)だいふく		
事業所名	グループホームほのぼの広場 (1F)		
所在地	愛知県稲沢市下津光明寺町39-1		
自己評価作成日	平成26年 9月20日	評価結果市町村受理日	平成27年 5月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kanji=true&JivogyoCd=2373900519-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成26年10月 6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日毎日これでいいということではなく、絶えず状況が変わり日々勉強です。月4回の研修会も4年目を迎え、新たな課題もみつかっています。より良い介護に向けて職員一同がんばっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

以前から継続の、月4回のホーム内研修・勉強会について、本年は更に力を入れ、介護技術、医療知識の両面のスキルアップを目指した。内容のマンネリ化や古い知識の継承に課題を見出し、課題と向き合って改善を図る取り組みも進み、今年度は新分野である、介護職としての医学・医療の知識習得というキーワードで、気持ちも新たに職員の意識を一つにしている。
 利用者の入れ替わりも多く、男性利用者の受け入れも過去最高人数となり、ホームの持つ、ほのぼのとしたのんびりな雰囲気が一変する事態ともなったが、経験豊富な職員あの手のこの手の支援で、ユニットのチームワークをもって利用者を支え、入居時の状態を改善し、ホームの日常を取り戻すに至っている。体を動かし、気持ちをリフレッシュさせ、利用者を笑顔にする支援は、見事な継続がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつもと同じなじみの顔、暮らしの喜び、ゆっくと楽しく」 勉強会などの機会を通じ、上記理念を幅広く実践できるようにしている。	法人理念の実践とは、「変わらない生活が一番」の理解で、職員意識を統一している。毎週実施の勉強会や日々の申し送りと、職員の集う機会は多く、利用者の生活の向上を話し合い、実践に反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園児、小学生、中学生の体験学習の受け入れなど、地域との連携した交流が増えてきている。	様々な交流の継続があり、保育園児の可愛い訪問を受け、園児が持参した、利用者への花束の贈呈は、微笑ましいエピソードである。中学生の職場体験受け入れは、毎回、訪れる生徒の実のある経験となるよう受入れている。近所の農家は四季の野菜をホームに届けることを楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症や介護について地域の人から相談を受けるようになった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの活動報告だけでなく、防災等地域との協力やイベントの参加もお願いして意見を求めている。	年6回開催の会議は、利用者と家族、地域代表、行政関係者等の多くの参加を得て、ホームの活動報告を行い、意見交換を通じて改善のヒントを得ている。地域との連携のきっかけの場として、情報収集にも努め、相互に関われる関係作りに努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護予防教室への参加や、市担当者に運営推進委員会への参加お願いだけでなく、こまごまとした相談にも行くようにしている。	入居待機者の紹介、運営に関する相談など、種々の情報交換を行い、協力する関係を築いている。また、法人代表は市の主催する予防介護教室の体操講師として地域に貢献している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束をしないケアに努めている。	玄関の施錠はなくホーム内の2ユニット間も、制約なく自由に行き来できる状態である。制止する言葉がけもなく、職員は勉強会や日々の実践指導を通じ、拘束をしない介護について熟知し、実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体だけでなく、特に言葉での虐待がないように職員の研修に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に対しての勉強は行っているが、後見人制度を活用している利用者は少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに対する取り組みや事業所の対応可能な範囲についての説明を行っている。契約解除については特に念入りに説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時にも要望を伺って、ケアプラン作成時だけでなく、利用者さんの言葉や態度から、その思いを察する努力をし、利用者主体の運営を心がけている。	日常の面会に加え、ホームの行事には多くの家族の参加を得ており、家族はホームに気兼ねなく意見を表している。また、手書きの便り「くらしの日記」で利用者の様子を分かりやすく伝え、家族が意見を出しやすくするツールとして活用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃からコミュニケーションを取るよう心がけており、何かあった場合も改善点を一緒に考えている。	ベテランの職員の多いことから、何事にも意見交換をし、気持ちを一つにして利用者を支える支援が日常となっている。毎週実施の勉強会は、職員自ら自主的に課題を揚げ、話し合うことで課題を解決し、スキルアップを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者も施設内にいるため、日頃より職員の意見や要望を聞くように心がけているが、不満や苦情は言い難い部分も多いので把握し切れていない可能性もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎週各ユニットで勉強会を行っている。職員それぞれ同一目線で介護ができるように研修している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知GH協会へ参加し、見学会や勉強会を企画している。空き情報や改善点、法令についても情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族だけでなく、本人への面接を行っている。本人の希望や困っていることに耳を傾け、施設での生活に早くなじんでいただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族の状況に耳を傾け、その苦勞に共感できることにより、信頼関係の構築につながると考え、できる限り話を聞くように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を前提に話を進めるのではなく、他のサービスの利用も考え、本人や周りを含め安心して暮らせるように検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎食事のいただきます、ごちそうさまは当番で行って、施設全体が家族という考えのもとで利用者さんと職員が生活できたらと努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係が切れないように、できる限り自由に家族の方に訪問していただいている。外出などの機会を設け、家族の方も介護に参加できるような関係作りを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく親戚や友達との交流ができるよう支援し、本人が大切にしてきた馴染みの関係が途切れないように支援に努めている。	家族外出の日曜礼拝、月命日や旅行等、家族の協力での馴染みの継続事例は多い。また、元習字の師範の利用者は、ホームの筆字の掲示物の作成を担当し、手先の器用な利用者は、毎日、折り紙のゴミ箱づくりを日課にしたりと、趣味や習慣の継続にも工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないようにスタッフが間に入り共通の話題を提供するなど気をつけている。利用者が女性ばかりなので、職員が中に入って話をまとめることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等でサービスが終了しても、継続的に面会に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族とのコミュニケーションを多くし、一人ひとりの暮らし方を皆で検討している。	職員は、利用者の生活歴を理解のうえ、日常の利用者の自然な会話や、利用者とのコミュニケーションで、思いや意向を把握している。内容は申し送りや会議等で共有し、実現に向けて取り組んでいる。継続的な取り組みについては、介護計画に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生まれた環境、生活環境等一人ひとりの生活歴の違いがありサービス利用の提供の難しさがある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や好みが異なるため、必ずしも同一の生活にはならないということを頭において、個性を生かした生活ができるよう心がけていきたい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族を含め複数人でのケアプラン会議ののちに介護計画を作成する。できるだけ多くの視点が取り入れられるよう心がけている。	3ヶ月毎を基本に、モニタリングと介護計画の見直しを行っている。毎月のケアカンファレンスで、利用者の状態変化や支援内容を話し合い、利用者、家族の意見を確認のうえ、介護計画を作成している。	家族の都合もあり、サービス担当者会議等の、一堂に会した会議開催が難しく、介護計画作成後の説明となるケースも多いことから、今後の取り組みが期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、健康状態の把握に努めている。その日の状態がすべての職員に確認できるようにしている。また、日々の日記をつけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族それぞれ考え方も違うので、できるだけ柔軟に対応している。また、事業所の鍵は開放しているので、気軽に面会に来られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会を活用し、市や地域、家族との話し合いをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望に応じて、かかりつけ医を選んでいる。また、病状に応じて家族と相談して適切な医療を受けられる様に支援している。	かかりつけ医は利用者、家族の希望医としている。外来受診は家族対応を基本としているが、困難な場合は、同行を支援している。早期の受診で、状態が重症にならないように、利用者の状態観察を徹底している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携し毎週来てもらっている。また、施設内の看護師と相談し、適切な受診、看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時のダメージを極力防ぐため、早期退院をお願いしている。状況把握も兼ねて、できるだけ見舞いに伺っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できるだけ終末期まで診えるように日頃から家族や病院との連携を深めている。かかりつけ医には緊急時の往診をお願いし、診察していただいたこともある。	書面をもってホームの看取りの指針を説明している。利用者、家族の希望のある場合は医師と相談のうえ、できる限り、本人の望むホームでの暮らしを支援している。看取りの段階においては、医療が必要となった時点で、医療機関や他施設移行を検討し、最善の方法を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年の震災を受けて緊急時のマニュアルや勉強会や訓練を行っている。連絡網ですぐ連絡できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の緊急対策について地域の人々と話し合っている。非常持ち出し具の準備や、緊急連絡網、避難訓練を行っている。	年2回の避難訓練を実施している。消防署と話し合い、今年度は避難経路の確認も行っている。ホーム内の電源、間取りの改修・改善を実施している。また、飲食料の備蓄を推進し、有事に備えている。	飲食料の備蓄について、利用者の嗜好に留意し、食べ慣れない非常食ばかりではなく、乾麺やインスタント食品等、日常の保存食の流用も視野に入れた備蓄も一考であると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のプライバシーに関わることは他の利用者がいるところでは、配慮している。本人の誇りを傷つけないように気をつけている。	職員は利用者のペースを重んじ、利用者のその時の気持ちを大切にし、丁寧に寄り添っている。利用者への呼びかけや声掛け、話の内容等、プライドを損なわない接遇に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自主的な行動は難しい方もいるため、その方は複数の選択から選んでいただけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日のペースを職員が示して暮らしていただいているが、一人ひとりの個性を生かすように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容院を定期的にご利用している人や、ご自分のかかりつけの美容院に行く人もいる。各々身だしなみに気をつけていただけるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材とメニューを取り寄せているが、お好みメニューで献立を決めることもある。	新鮮な食材の取り寄せを目的に、平日は配食材を活用している。利用者の楽しみの食事となるように、毎週日曜日は自由食を企画し、利用者のリクエストメニューを作り、時には外食にも出かけている。行事食は特に定評で、家族も一緒に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分量、大体の摂取カロリーは把握している。水分量はその人の体調にあわせて取っていただくこともある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。出来る限りご本人に行っていたが、介助を行う方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間誘導だけでなく本人の行動や発言なども考慮しながら誘導を行い、おむつの使用をできるだけ減らせるよう努力している。	トイレ排泄を基本に、利用者の残存能力を活かし、最小限度の適切な支援に努め、自立した排泄の継続に取り組んでいる。また、自立排泄の難しい利用者には、状態と状況に合わせて、二人介助のトイレ排泄やオムツを支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操や元気体操、ボール体操、天気の良い日には散歩などの運動を行ったり、食事にも気を使っている。特に水分の摂取量を気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	安全面から職員の多い日中の時間帯で行っている。順番はできる限り変えて各々が入浴を楽しむことができるように支援している。	両ユニットが曜日をずらし、隔日の入浴を支援している。結果、希望があれば、両ユニットで毎日の入浴も可能である。入浴日には、不公平のないように全員の入浴を支援し、職員とのコミュニケーションを楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は一人ひとりにあわせ消灯時間は特に決めていない。昼夜逆転をしないように気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	業務日誌のポケットに薬剤情報を入れ、すぐに確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好みや体力に合わせた仕事(洗濯物たたみ、コーヒーのセッティングなど)を手伝っていただいている。また、体を動かすお手伝いだけでなく、知恵や知識からのお手伝いもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい時には、車椅子の人も含め屋外に出るか、散歩に出かけるようにしている。時には近所のお店で外食をする時もある。	日課の散歩、馴染みの飲食店への外食、家族外出等、気晴らしや気分転換の外出の機会を多くしている。地域の清掃作業に利用者と一緒に参加したり、お祭りに参加したりと、地域交流にも出かけ、花見等の行事外出も多数企画している。体を動かすことがリフレッシュ!の意識で意向を実現している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金のしまい場所を忘れてしまうことが多いため、本人が持っているお金は小額にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話で家族といつも話している人や家族と連絡して外出している人もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活になじみのあるものを置くようにしている。また、テーマを決めて1年かけて貼り絵の壁紙を作り鑑賞している。	リビング、通路など十分なスペースの確保があり、リビングの2面が全面ガラスの、解放感ある空間である。清潔保持にも余念がなく、ベテラン職員の手際の良さがうかがえる。理念通り、いつもと同じなじみの顔が集い、笑顔あふれる共有空間となっている。玄関には季節の花を活け、訪れる人を迎えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールだけでなくホールの反対側にもソファが置いてあり、思い思いに過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの方は施設で用意したものを使われている。タンスは画一的にならないように各居室で違うものになっている。小物は家庭から出来る限り持ってきていただいている。	利用者と家族の希望する、家具やテレビを好みに配置し、居心地の良い環境づくりを工夫している。日中のほとんどをリビングで過ごす利用者が多いことから、寝室としての環境整備に視点を置き、落ち着ける環境づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりができることを考慮しつつ、プライバシーを尊重し、安全に生活を送れるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373900519		
法人名	(株)だいふく		
事業所名	グループホームほのぼの広場(2F)		
所在地	愛知県稲沢市下津光明寺町39-1		
自己評価作成日	平成26年 9月20日	評価結果市町村受理日	平成27年 5月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2373900519-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成26年10月 6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日毎日これでいいということではなく、絶えず状況が変わり日々勉強です。月4回の研修会も4年目を迎え、新たな課題もみつかっています。より良い介護に向けて職員一同がんばっています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつもと同じなじみの顔、暮らしの喜び、ゆっくりと楽しく」 勉強会などの機会を通じ、上記理念を幅広く実践できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時のあいさつにはじまり、毎日のように近隣の方から農作物の差し入れをいただいている。地域との連携を取れるよう努力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症や介護について地域の人から相談を受けるようになった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの活動報告だけでなく、防災等地域との協力について話し合い、地域から孤立しないようにお願いしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護予防教室への参加や、市担当者に運営推進委員会への参加お願いだけでなく、こまごまとした相談にも行くようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束をしないケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体だけでなく、特に言葉での虐待がないように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に対しての勉強は行っているが、後見人制度を活用している利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに対する取り組みや事業所の対応可能な範囲についての説明を行っている。契約解除については特に念入りに説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時だけでなく、利用者さんの言葉や態度から、その思いを察する努力をし、利用者主体の運営を心がけている。毎日の生活が楽しくゆたかに送れるよう努力している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃からコミュニケーションを取るよう心がけており、何かあった場合も改善点を一緒に考えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者も施設内にいるため、日頃より職員の意見や要望を聞くように心がけているが、不満や苦情は言い難い部分も多いので把握し切れていない可能性もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎週各ユニットで勉強会を行っている。職員それぞれ同一目線で介護ができるように研修している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知GH協会へ参加し、見学会や勉強会を企画している。空き情報や改善点、法令についても情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族だけでなく、本人への面接を行っている。本人の希望や困っていることに耳を傾け、施設での生活を楽しんでいただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で家族に今までの病歴及び生活歴をお聞きするが、最初は隠されることが多い		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を前提に話を進めるのではなく、他のサービスの利用も考え、本人や周りを含め安心して暮らせるように検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設全体が家族という考えのもとで利用者さんと職員が同じ料理を食べ、共に過ごし支えあう関係を築くように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係が切れないように、できる限り自由に家族の方に訪問していただいている。外出などの機会を設け、家族の方も介護に参加できるような関係作りを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく親戚や友達との交流ができるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないようにスタッフが間に入り共通の話題を提供するなど気をつけている。男性の利用者も増え、話がはずみ遅くまで話し込まれていることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等でサービスが終了しても、継続的に面会に行っている。また、家族も折に触れ訪ねてくださる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族とのコミュニケーションを多くし、一人ひとりの暮らし方を皆で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生まれた環境、生活環境等一人ひとりの生活歴の違いがありサービス利用の提供の難しさがある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や好みが異なるため、必ずしも同一の生活にはならないということを頭において、個性を生かした生活ができるよう心がけていきたい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族を含め複数人でのケアプラン会議ののちに介護計画を作成する。できるだけ多くの視点が入り入れられるよう心がけている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、健康状態や、その日の状態がすべての職員に把握できるようにしている。健康等に不安がある方は、看護師と相談して早めの治療を心がけている。また、個別に暮らしの日記をつけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族それぞれ考え方も違うので、できるだけ柔軟に対応している。また、事業所の鍵は開放しているので、気軽に面会に来られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会を活用し、市や地域、家族との話し合いをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望に応じて、かかりつけ医を選んでいる。また、病状に応じて家族と相談して適切な医療を受けられる様に支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携し毎週来てもらっている。また、施設内の看護師と相談し、適切な受診、看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時のダメージを極力防ぐため、早期退院をお願いしている。状況把握も兼ねて、できるだけ見舞いに伺っているが、個人情報の観点から状態を教えていただけないこともある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できるだけ終末期まで診えるように日頃から家族や病院との連携を深めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年の震災を受けて緊急時のマニュアルや勉強会や訓練を行っている。2階住居のため、具体的な避難訓練を行い、実践力を身につけるよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議を通じて災害時の緊急対策について地域の人々と話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のプライバシーに関わることは他の利用者がいるところでは、配慮している。失禁等の処理もできる限り周りに気を使っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自主的な行動は難しい方もいるため、その方は複数の選択から選んでいただけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日のペースを職員が示して暮らしていただいているが、一人ひとりの希望には添えない場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容院を定期的にご利用している人や、ご自分の理、美容室を利用している人もあり、各々季節に応じた身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材とメニューを取り寄せている。時にはお好みメニューで献立を決めることもある。下ごしらえや後片付け等を手伝っていただきながら調理し、職員も同じものを一緒に食べている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分量、大体の摂取カロリーは把握している。水分量は体操やレク後などを利用し、できるだけ多めに取っていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。出来る限りご本人に行っていたが、介助を行う方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間誘導だけでなく本人の行動や発言なども考慮しながら誘導を行い、おむつの使用をできるだけ減らせるよう努力している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操や元気体操、天気のいい日には散歩などの運動を行ったり、食事にも気を使っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	安全面から職員の多い日中の時間帯で行っている。順番はできる限り変えて各々が入浴を楽しめるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は一人ひとりにあわせ消灯時間は特に決めていない。昼夜逆転をしないように気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	業務日誌のポケットに薬剤情報を入れ、すぐに確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみはみんなのできることを共有している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気のいい時には、車椅子の人も含め屋外に出るか、散歩に出かけるようにしている。時には近所のお店で外食をする時もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金のしまい場所を忘れてしまうことが多いため、本人が持っているお金は小額にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家人への手紙や絵手紙の先生からの手紙の交流がある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活になじみのあるものを置くようにしている。また、ご自分で作られた作品を飾ったり、壁紙などで季節感を出している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールだけでなくホールの反対側にもソファが置いてあり、思い思いに過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの方は施設で用意したものを使われている。タンスは画一的にならないように各居室で違うものになっている。小物は家庭から出来る限り持ってきていただいている。また、家具を全部持ち込まれている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりができることを考慮しつつ、プライバシーを尊重し、安全に生活を送れるように工夫している。		